

第3回 文字情報基盤文字情報検討WG 議事録

1. 日時

平成23年11月15日(火) 15:30~17:30

2. 場所

IPA 15階 委員会室1

3. 出席者

【主査】

高田 智和 人間文化研究機構国立国語研究所 理論・構造研究系准教授

【委員】

小西 聡 日本電気株式会社第三ITソフトウェア事業部 マネージャ

関口 正裕 富士通株式会社 ミドルウェア事業本部 商品企画室 次期開発企画部
マネージャ

富田 信雄 株式会社モリサワ 本社開発本部副本部長 本社開発部部長

三橋 洋一 大日本スクリーン製造株式会社 商品開発統括部ソフトウェア商品開発
部フォント課 課長

山本 知 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ソフトウェア事業部 事業戦
略本部 戦略企画部 主任技師

【事務局】

田代 秀一 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター長

小林 龍生 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター専門委員

沼田 秀穂 情報処理推進機構国際標準推進センター研究員

池田 佳代 情報処理推進機構国際標準推進センター研究員

4. 配布資料

<配布資料>

参考資料0: 第2回文字情報検討WG 議事録(案)

参考資料1: 第2回文字情報推進委員会議事録(案)

参考資料2: 行政機関向け文字情報基盤の公開について

参考資料3: 文字情報基盤説明会資料

参考資料4: 在留カード及び特別永住者証明書の氏名の漢字表記について(意見募集)

5. 議事内容

1. 開会

高田主査より開会の挨拶

2. 行政機関向け文字情報基盤の公開，文字情報基盤説明会についての報告

事務局田代より参考資料 2 行政機関向け文字情報基盤の公開について説明した。

3. UCS 符号の確認作業について

UCS 符号の対応確認作業について，事務局小林が報告した。

【MJ 文字図形に対応する UCS 符号位置情報再調査進捗報告】

前回 WG 後，汎用電子情報交換環境整備フォローアップ委員会（以下，汎用電子委員会）の関口委員長からメールを頂戴した。具体的には，汎用電子委員会から文字情報基盤事業に伝達された文字情報の UCS 符号位置情報に，必ずしも最適とは言えないものが含まれている可能性がある，現在汎用電子委員会でも再精査を行っているが，UCS 符号位置情報の利用については慎重を期されたい，という趣旨であった。このメールを契機に，汎用電子委員会とも情報交換を密にしたうえで，下記の調査を実施している。

文字情報基盤事業として改めて，現在 UCS 対応カテゴリ B 及び C となっている MJ 文字図形に対して，対応する UCS 例示字形を調査し，符号位置に関する調査を行う。はじめは，ISO/IEC 10646:2003 規格表 拡張 B の例示字形との対応関係より調査を開始している。調査は現在も継続しているが，11 月 12 日時点で下記の通りとなっている。

- 1) 規格表と突合せを行った MJ 文字図形： 18828 文字/39969 文字
- 2) 1)で対応すると思われる符号位置を特定したもの： 10054 文字
- 3) 2)のうちで，汎用電子の UCS 情報と一致したもの： 9598 文字

途中経過ではあるが，2)に対して3)であるため約 95%が一致していることになる。汎用電子の UCS 情報と IPA 調査で符号位置が一致していないもの，IPA 調査で少しでも疑義が呈されたものについて，再度確認作業を行うことにし，確度の高い情報に持っていける見通しである。

【質疑応答】

- 可能性のある符号位置については出来るだけ広く拾うことができるように，少しでも疑義のあるものについては，マークを付しておき，後で専門家が判断するのが良いのではないか。
- 今後の作業に反映することにする。

4. 新規符号化方針等の議論

今後の文字情報検討 WG の活動方針および文字同定ハンドブックに記載する内容について，議論を行った。

【質疑応答】

- 汎用電子委員会側で，前回の IRG（11 月 7 日～10 日）で新規符号化の下提案を行った。また，IVD への登録申し込みの第 2 段が進行中である。
- 情報規格調査会 SC2 専門委員会と，今後の役割分担について協議する必要がある
- 法務省及び総務省で在留カード及び特別永住者証明書の氏名の漢字表記について意見募集が行われている。文字情報基盤事業として何らかの対応の必要があるのではないか。

- 対象文字の多くは、MJ 文字情報一覧表に含まれているか UCS で既に符号化済みのものであり、技術的にはフォントの拡充だけで対応可能な見込みである。今後、総務省及び法務省と個別に情報交換を行う。
- 変体仮名について。昨年度の報告書で、何らかの調査検討が必要であるとの記述があるが。
- 今年度は、時間的な余裕がなく、検討することが出来なかった。課題としては認識しているので来年度の WG への申し送り事項とする。
- 文字図形同定ハンドブックの進捗状況についてはどうか。
- キャラクター概念とグリフ概念の切り分けを軸とする構成を考えている。行政実務の現場において必要とされているのは、キャラクターではなくグリフの使い分けというのが実態のようだ。グリフの異同ということでは、現在の MJ 文字図形はほぼ必要十分な要件を満たしていると考えられる。JIS や UCS などの符号化文字集合における包摂や統合の概念とは別のレベルで、常用漢字表の記載事項と戸籍法関連の法令や通達・通知との異同を軸に、考え方を整理したい。次回委員会までには何らかの方針を文書で提出したい。
- 外国人登録用漢字が話題になっているが、文字情報基盤事業としてはどう対応するのか。
- 関係省庁、団体と協議中である。基本的には、現状の MJ 文字情報一覧表との整合性を担保した上で取り込む方向で検討している。
- 最近、戸籍統一文字に追加があったが対応はどうするのか。
- 基本的には、汎用電子側の対応に従う。新規追加が必要な 1 文字については、追加することになると思われる。
- 住基統一文字との整合性のために新規に作成することになった文字図形の状況はどうなっているか。
- MJ 文字図形名の変更はない（従来から、文字図形名としては区別し、文字図形のイメージのみ共有していた）。新規に作成した文字については、既に最新のフォント及び MJ 文字情報一覧表には反映されている。

4. その他

別紙の日程で、文字情報基盤説明会を行う。WG 委員の方にも参加していただければ幸いです。次回 WG 開催予定日を 12 月 21 日（水）15:00～17:00 とする。

以上